# Book Review

## デンタルプラークのすべて
### 歯科疾患の予防と治療はバイオフィルムとの戦い

奥田克爾　著

A4 判，188 頁
2 色
定価（本体 7,700 円+税）
医歯薬出版刊

Reviewer
米山武義　Takeyoshi Yoneyama
（静岡県・米山歯科クリニック）

このたび，奥田克爾先生による掲題の書籍が医歯薬出版より刊行されました．数ある医療における専門領域のなかで歯科たる所以の一つは，歯科がこのデンタルプラーク，バイオフィルムと常に戦っている点です．さらに戦うばかりでなく，口腔の細菌に助けられている側面も多々あります．歯・口腔と全身健康が密接にかかわっていることが科学的に解明されつつあるなか，本書を通してデンタルプラークの本質を知ることは，歯科の新しい未来を約束してくれるものと思います．

私自身，学生時代は微生物学（細菌学）を敬遠しがちでしたが，実際に歯科臨床に携わると，絶対に避けては通れない学問になることを経験しています．むしろ感染症に対する認識が高まっている現在，患者さんに対して歯科疾患が感染症であり，いかに発症して，重症化するかを説明するときに最も重要で有用な学問になります．

つまり微生物学を抜きにして歯科臨床は成り立たないと言っても過言ではありません．本書はその“微生物学”を“デンタルプラークのすべて”という切り口に替え，歯科医療者にとってより身近にそして歯科として誇りをもてるレベルまで昇華してくれます．

奥田先生と私との共通項はスウェーデンに留学経験をもち，遠い北欧の地で若いときを過ごしたことで，非常に親しみを抱いていましたが，それ以外にも私が誤嚥性肺炎に関する研究を遂行したのち，機会あるごとにいろいろなアドバイスを与えてくださった恩人でもあります．

先生は本書以前に医歯薬出版から『デンタルバイオフィルム―恐怖のキラー軍団とのバトル」（2014 年），『史上最大の暗殺軍団デンタルプラーク」（2016 年）とその続編（2019 年）を刊行されていますが，とてもわかりやすく，臨床現場で重宝されている書物です．

また，学者，医療人としての奥田先生の哲学も読み取れます．「医聖」「医学の父」として歴史に名を残す偉大なヒポクラテスの宣誓文，医療倫理の根本を説いた「ヒポクラテスの誓い」を連想させます．深遠で崇高な医療倫理の下にデンタルプラークを記したところに本書の素晴らしさがあります．

そしてウェイストン・プライス博士（1870～1948）の記した「“Dental Infection”（＝歯科感染症）」を紹介され，「口腔慢性感染症は命に係わる疾患である」との博士の膨大な研究の成果を強調されていたその姿勢に心を打たれました．

新型コロナウイルスによって社会全体が機能不全に陥ろうとしているなか，予防策として手洗い，マスク，ソーシャルディスタンス，換気が推奨されていますが，残念ながら大切な口腔衛生管理が抜け落ちています．最終章に書かれた「これからも襲来するであろうさまざまな感染症に対しても，オーラルヘルスが最前線で対峙できると考えている」という言葉は，口腔こそ予防の要であるという強いメッセージが込められています．これらのことより本書は予防医学の本質を学ぶ人に最高の良書になると確信しています．